



主体的に学びに向かう力

校長 川井 まさよ



2月早々には、東京でも雪が降り積もりましたが、先週は一転して、3月から4月上旬の気温となり、暖かい日が続きました。まさに、三寒四温といわれる通りです。今年は、梅の花もすでに満開となり、着実に春が近づきつつあるのを感じます。

先月末の作品展示会には、たくさんのご来校をいただきありがとうございました。各学年、各教科で取り組んできた作品は、生徒一人一人の個性の輝きが見られ、また、その作品に込められた想いも伝わってくるようなものばかりでした。生徒達も、作品を見ながら、2年生(3年生)になったら、「こういう作品を作るのだ」、「このような勉強をするのだ」というものを見つけ、「自分だったら…」というイメージも頭に浮かべられたことだと思います。

6組は、10日(土)に、福生市民会館で行われた、多摩地区特別支援教育研究会主催の「劇と音楽の会」に参加しました。今年はトーンチャイム「遠い日々」とダンス「WON' T BE LONG」「ジャンボリーミッキー」を披露しました。トーンチャイムは音楽祭の時よりも数段(一人で何本も担当する)難しい曲に挑戦し、また、ダンスも初めは恥ずかしさもあったようですが、音楽祭以降、日々練習に取り組み、当日は、堂々とパフォーマンスを行い、会場内を感動の渦に巻き込みました。「やりきった」という成就是、人前で自信をもって行動できるようになるための一歩でもあり、6組生徒にとって、これからの人生を歩んでいく時の大切な糧となる力となったと捉えています。

3年生は、1月末の都立や私立の推薦試験に続き、今月10日からの私立の一般入試も終わりました。都立の一般入試を控え、ラストスパートをかけて頑張っています。

さて、本校は、令和4・5年度小金井市教育委員会授業改善推進指定校として、生徒一人一台のICT端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、研究の取組を行ってきましたが、16日(金)に、その研究発表会を行いました。当日は、小金井市教育委員会の方々や市内小中学校の先生方だけでなく、市外からもたくさんの先生方においていただき、1、2年生の授業の様子も見ていただきました。

「個別最適な学び」とは、生徒一人一台のICT端末を活用しながら、自分にあった学びの方法を選択し、また、それぞれの問いを追求するものです。その個々の学びを対話活動など、他者と関わる学び、つまり「協働的な学び」を行うことで、自分とは違う多様な考えや意見に気づき、自分の考え方を振り返り、再構築し、学びを深めていくことが、「一体的な充実」となります。そのための授業方法を研究し、授業改善に取り組んで参りました。

その中で、生徒達は、今までは先生に聞いて済ませていたことを、自ら調べ、考えるようになり、また、対話活動については「(自分とは違う意見を知ることが)楽しい」「自分の考えを見直すことができるようになった」などの授業アンケートのコメントがみられるなど、主体的に学ぼうとする態度が育ちつつあると捉えています。

学び方は、人それぞれに違うものであり、自分によりあった方法を自分自身で見つけだしていくことが、次への大きなステップにつながるのです。また、知識や技能などを根拠とした「考え」であることも大切です。さらに、他者との協働(例えば対話活動など)を通して、自分とは異なる多様な考え方を知ること、自分自身の視野を広げ、また、他者との調整をすることがよりよい答えを導き出すことにもつながるのです。生徒たちにそのような学びの方法を身に付けさせることで、「良き社会人」として、将来、世の中で活躍し、貢献できる人となってほしいと願って、今後も意図的に行ってまいります。ご家庭においても、結果だけでなく、そのプロセスを大切に、話合

いなどをするにより、共に子供たちを育てていければと考えます。ご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

今年度も大詰めを迎えています。今後もよりよい学校づくり、「よき社会人の育成」に取り組んでまいりたいと考えております。何卒、御支援・御協力をよろしくお願いいたします。



二中学生の活躍

(表彰は賞状等が届き次第実施します)

2-1 Iさん 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 主催

第10回 全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール

中学生の部 会長賞 「だれにも住みよい街はどうやってつくる？」

東京都公立学校美術展覧会出品者 (学級順・五十音順)

2-2 Kさん シンボルマーク「羽ばたく」 2-2 Hさん シンボルマーク「はばたく鳥」

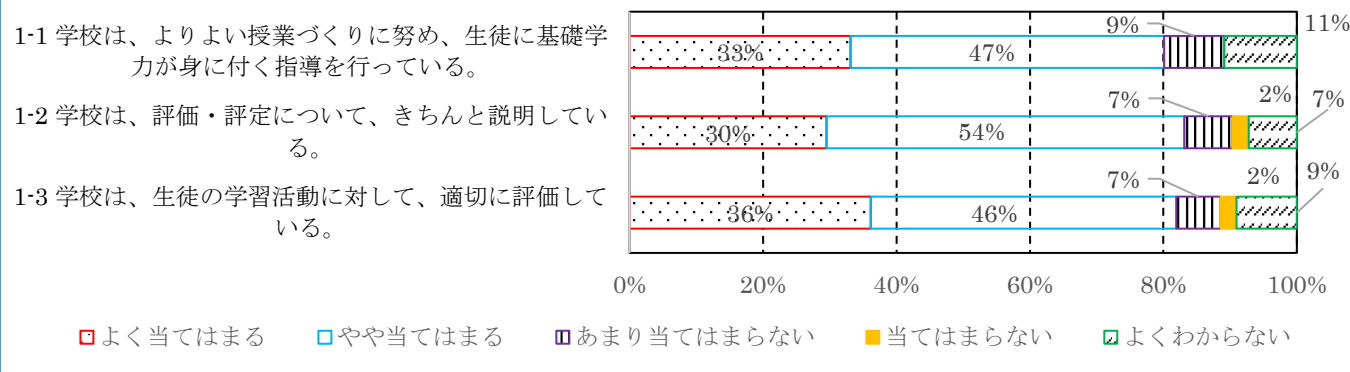
2-4 Oさん シンボルマーク「伝統と未来」 2-4 Tさん シンボルマーク「相生」

保護者アンケートの結果

昨年末に実施いたしました教育活動についての保護者アンケートの結果をご報告いたします。現在来年度に向けて今年度の教育活動の総括を行っております。それぞれの課題につきましては、いただいたご意見をもとに来年度の教育活動に活かしてまいりたいと考えています。なお、分析に際しては、「よく当てはまる」「やや当てはまる」と答えていただいた回答を「肯定的回答」と記述しています。ご協力ありがとうございました。

全体的な課題として … 生徒数は増えましたが、回答数(166名)は昨年度より若干減少しております。なお、記述回答につきましては、質問項目ごとに代表的な内容を抜粋して掲載しております。

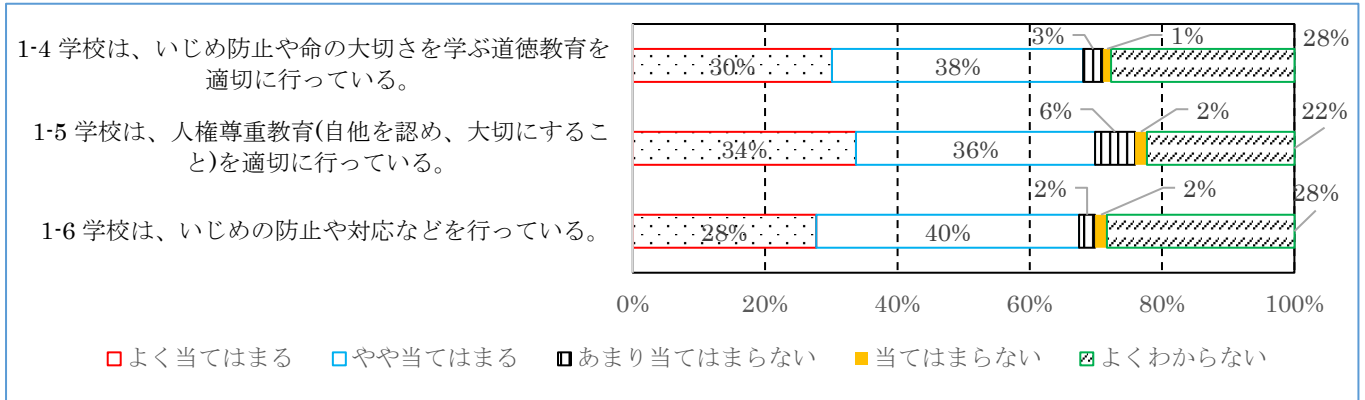
※ 質問1～3は、学習に関する質問項目となります。



3項目の質問に対する「肯定的回答」はおおよそ80%でした。また、「3 学習活動に対する適切な評価」の「よく当てはまる」の項目が昨年度に比べて10ポイント向上しました。記述回答では「基礎学力が身に付く指導の点は良かった」「授業が工夫されていてとても面白そう」「基礎学力について学力の差が気になる」「テスト内容や評価内容が適切なのか、については保護者としてはわかりづらい」などの御意見を頂戴いたしました。

本校ではこの2年間、「生徒一人一台のICT 端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実」を研究主題とし、小金井市教育委員会授業改善推進指定校として令和3年中央教育審議会答申の内容（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して）を踏まえた実践を積み重ねてきました。今後ともICT 機器等を活用し主体的・対話的で深い学びの実現に向けよりよい授業づくりに取り組み、評価・評定についての説明責任を果たしてまいります。

※ 質問4～6は、人権教育をはじめとする生活指導面についての質問項目となります。

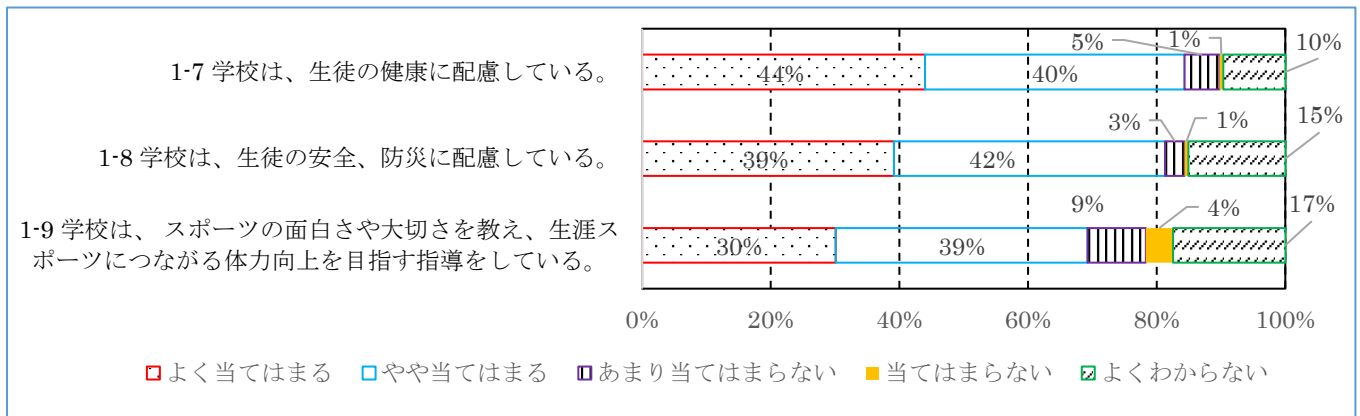


概ね「肯定的評価」の割合が高いですが、どの項目の数値も70%以下となりました。「4 いじめ防止や道徳教育を適切に行っている」は昨年度より「わからない」の回答率が7ポイントほど高くなるなど、この3項目は生徒の様子からだけでは感じ取りにくく「わからない」の回答が多い状況と考えます。生徒の日頃からの様子をご覧いただく機会や道徳や人権尊重についての授業広報の充実等を行う必要があると感じております。

記述回答では、「道徳の授業はいろいろな先生の話が聞けて面白いと親に話している」「2年移動教室での「みんなで協力して自他を認め大切と感じられる活動」のような活動が増えるとよい」「人権尊重教育・道徳教育など授業中の話ならよくない事かどうか考えられるが、現実には自分の周りのことだとしたら対応できるか、思春期特有の友達関係の中では紙一重なところもあるのではないか」「兄弟たちが在籍していた時期と比較して、生徒からの率先した挨拶が聞かれなくなってきたように感じる」といった内容をご意見として頂戴いたしました。

今後も「特別の教科道徳」の授業だけではなく、学校の教育活動全体を通じて生徒の人権意識の更なる涵養に努めるとともに、その取組については、学校ホームページや「保護者会」、「道徳授業地区公開講座」「学校公開」などでの情報発信を強化してまいります。また、あいさつについては3学期に生徒の専門委員会でも話題に上がり、キャンペーンを実施しました。生徒主体の取組を実施し、一層の意識向上を図ることが大切だと考えます。

※ 質問7～9は、健康・安全・体力等の面についての質問項目となります。



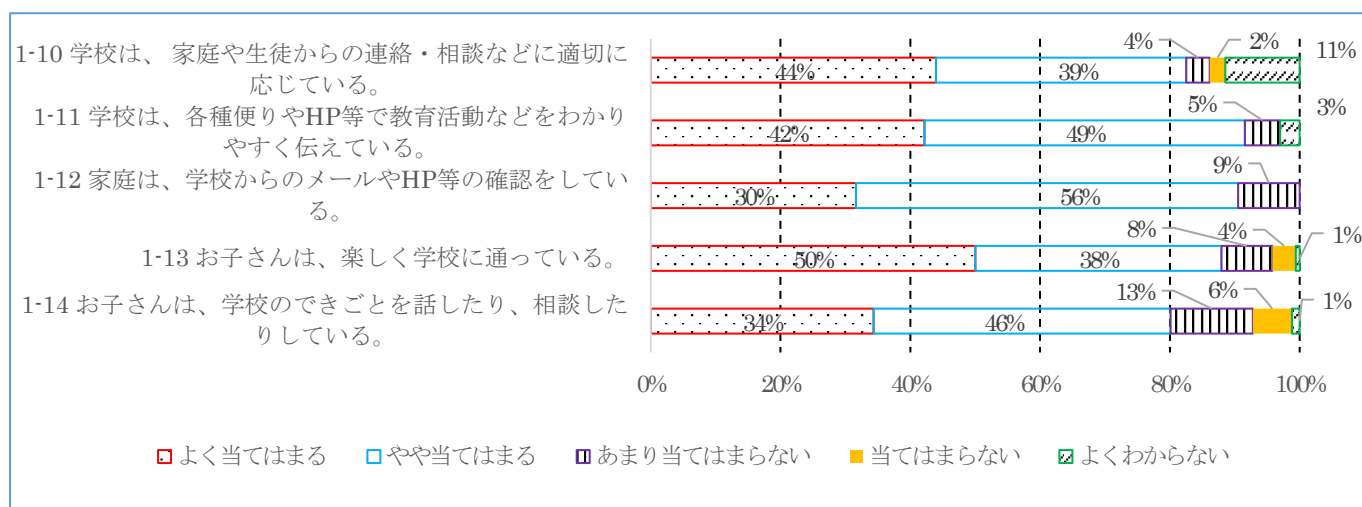
「9 体力向上」については「よく当てはまる」の項目が昨年度に比べて10ポイント程度低下したことが目立ちます。保健体育科の学習指導要領では小学校から高校までの12年間を見通した中で、中学校段階は「多くの領域の学習を経験する時期」となっており、スポーツ種目の競技性のみを追究した学習ではなく、積極的に様々な種目を取り入れた授業展開を行うこととなっております。もちろん、意欲を喚起する適切な教科指導の実施や生徒の興味関心の高い部活動において、できる限り専門的な指導者を確保することなどについては、学校として引き続き取り組みます。

生徒の健康面では、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、標準服での登校を基本としております。現在、儀式的行事以外の場面では、ブレザーを必ず着用するという指導は行っておりませんが、動きやすさからか

寒い日でも着用率が低い様子が見られるため、標準服の中に着用する下着等で体温調節を行うように促しております。生徒の健康上の理由等で対応が難しい場合等は学校まで個別にご相談ください。また、気候変動の影響が大きくなってきていることを踏まえ、標準服の「夏服」「冬服」の衣替えにつきましては移行期間を定めないこととしました。なお、空調設備の設置等、学校施設面のご意見をいただきました。学校からも要望を出しており、市と連携の上、対応していきますが、費用面や現校舎の経年などから、対処の難しい問題もあります。

今年度は7月に1年生で避難所運営講座を実施、地震による被害発生時にどうするか、考える授業を実施しました。1月の能登半島地震を受けて、改めて地域での防災意識の高まりを背景とし、年度内に二中校区の避難所運営協議会が立ち上げられる予定です。避難訓練では不審者対応訓練を年間で2回実施するなど、地震のみならず、生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう配慮してまいります。

※ 質問10～14は、学校の対応や広報、お子さんのご家庭で見せる様子についての質問項目となります。



この項目については、「子どもが困っていることに対して早急に連絡いただき、丁寧に対応していただき安心した」「学年・学校だより、HPの写真などで学校・行事の様子をよく伝えてくださっている」「子どもが楽しそうに通学できている」「先生方が子どもたちを子ども扱いせず対等な関係性で関わってくれているように感じる」などの教員の教育活動のさらなる励みとなる肯定的なご回答を多くいただき、大変ありがたいことと受け止めております。一方で、「学力が高い子や信頼ある子など決まった生徒の活躍ではなく他の子も平等に活躍できるとよい」「中学だけで判断できない場合に小学校との情報共有を積極的に行ってほしい」また、生徒への配慮が行き届いていないことについて、教員の発言や行動について、ご指摘をいくつかいただきました。

学校のできごとについて、お子さんからなかなか話や相談がない場合などは、ぜひ、学校からの便りやHP等をご覧いただき、話題にいただくと幸いです。

また、アンケート項目にはありませんでしたが、以下についても記載がありました。

小学校の行事(運動会、音楽会)と本校の土曜授業が重なっていたことについて

→ 次年度は重ならないように、現在学校間で事前調整を行っております。

不登校生徒に対して、「そよかせ」の開設は本当にありがたく、普通登校へのステップになっています。

→ 次年度も引き続き開設いたします。2月28日に懇談会を行います(メール配信済み)。

多くの意見が寄せられていることは、本校の様々な教育活動に対して、ご期待をいただいていることの表れであろうと捉えております。アンケート実施時期以外でも、気になることがございましたら学校までぜひご意見をお寄せください。さらなる改善に向けて行動していきます。